

地方都市におけるまちづくりの住民ニーズに関する一分析

—徳島県池田町住民アンケートを事例として—

A STUDY OF RESIDENT'S NEEDS FOR DEVELOPMENT OF TOWN ENVIRONMENT

—BASED ON THE QUESTIONNAIRE TO THE RESIDENT OF IKEDA TOWN—

澤田 俊明*・山中 英生**・山下 昌稔***

Toshiaki Sawada・Hideo Yamanaka・Masatoshi Yamashita

1. はじめに

1992年の都市計画法改正に伴い、徳島県池田町では、1993年より市町村マスタープラン策定に着手し、これに伴い、1994年に都市マスタープラン策定委員会及び住民アンケート、1995・1996年に住民ワークショップなどが開催・実施された。本論文では、このうち、住民アンケート調査より、①都市施設等に対する住民の満足度、②土地の活用に対する住民の意識、③アンケート調査における住民の自由意見について分析する。

表－1 池田町概要：1996年3月末

面積	168 km ²
人口・世帯数	18,508人、6,702世帯
高齢化率	25.6 % (全人口に対する65歳以上人口の割合)
土地利用	林野 82.2% 可住地 17.8% (耕地 3.6%)

2. 調査の概要

アンケートは、池田町都市計画区域に住む、20歳以上の成人1,000人を対象とし、池田町の依頼により、調査地区の町内会長を通じて、配布・回収された。回収率は88.6%と高い結果となった。また、アンケート集計結果は単純集計の他、調査対象者の属性と調査項目のクロス集計を χ^2 検定により行った。

表－2 アンケートの実施概要

実施期間	1994年11月
調査地区	池田町都市計画区域 (人口：8,582人)
調査対象者	20歳以上の男女
標本数	1,000人
回収方法	町内会による配布回収
回収数	886人(回収率88.6%)

キーワード 地域計画・土地利用

* 正会員、徳島大学大学院 (770 徳島市南常三島町2-1、TEL 0886-56-7350、FAX 0886-56-7351)

** 正会員、工博、徳島大学工学部建設工学科助教授 (770 徳島市南常三島町2-1、TEL 0886-56-7350、FAX 0886-56-7351)

*** 池田町建設課 (778 徳島県池田町シンマチ1500-2、TEL 0883-72-7623、FAX 0883-72-2165)

表－3 アンケートの質問概要

設問	内容
問. 1	回答者の属性：性別、年齢、職業、家族構成、自動車の保有台数、地区名、etc.
問. 2	都市基盤・生活関連施設等の満足度と10年前の比較：道路、公園、高齢化・福祉、雇用、etc.
問. 3	各種施設の満足度と10年前の比較：食事宿泊、買い物、文化・スポーツ、交通、etc.
問. 4	道路に対する満足度と改善の重要度
問. 5	公園・緑地に対する満足度と改善の重要度
問. 6	住宅と住宅地に関する要望
問. 7	農地に関する設問：将来的活用、貸し農園、etc.
問. 8	土地の提供に関する設問：買収提供、借地提供、etc.
問. 9	池田町の望ましい将来像：町全体、都市部、地区
問. 10	回答者の人生観に関する設問
問. 11	池田町都市部のシンボルに関する設問
問. 12	池田町都市部の美しいところ、好きな場所の設問
問. 13	回答者の最も大切なもの：自由意見
問. 14	まちづくりに関する自由意見

注) 問. 11,12,13,14は自由意見回答、その他は選択回答

表－4 回答者属性：回答数 886名

性別	男 65% 女 34% 無回答 1%
年齢	20代 7% 30代 18% 40代 26% 50代 24% 60代 17% 70代以上 7% 無回答 1%
職業	農林漁業 2.8% 鉱業 0.3% 建設業 7.8% 製造業 7.9% 電気・ガス・熱供給・水道業 2.6% 運輸・通信業 4.3% 卸売・小売・飲食業 11.2% 金融・保険業 1.0% 不動産業 0.6% サービス業 10.4% 公務員 11.5% 専業主婦 9.0% 学生 0.3% 無職 15.6% その他 12.8% 無回答 1.9%

3. 都市施設等に対する住民の満足度

表－5に、都市基盤・生活関連の施設等に関する満足度について、単純集計及び χ^2 クロス検定で整理した結果を示す。設問では、各調査項目に対して「満足している」、「まあ満足している」、「どちらともいえない」、「どちらかというと不満である」、

「不満である」の5段階で質問した。表－5では、「どちらかというと不満である」、「不満である」の不満サイドの意見について整理したものである。

単純集計結果では、全般的に住民の不満度は高く、中でも、道路・交通関連全般、身近で小さい公園の整備、雇用の機会の現状などに高い不満度が集中している。池田町都市部全体のイメージについても40%の住民が不満サイドの意見を示している。χ²クロス検定結果を見ると、「30歳代の人」、「公務員」、「卸売・小売・飲食業」、「65歳以上の家族がいない」などに属する人に、不満サイドの意見が多い。また、不満サイドの意見が少ないのは、「50歳代」、「60歳代」、「70歳代以上」、「卸売・小売・飲食業」、「無職」などに属する人に多い結果となっている。また、表－5には表れていないが、χ²クロス検定において「5%で有意」をみると、40歳代は不満サイドの意見が多い結果となっている。30歳代に不満サイドの意見が多い理由として、

主として、30歳代という世代が、小さい子供を持つ日常の家庭生活の中で、都市基盤・生活関連施設を利用する機会が多い世代であることによるものと考えられる。

まちづくり計画のプロセスでは、委員会方式・説明会方式・協議会方式・ワークショップ方式などの種々の手法が採用されるが、これら組織計画においては、上記調査結果より特定の年代層に偏ることなく、各世代のバランスある組織づくりが望まれる。

4. 土地の活用に対する住民の意識

(1) 土地の提供について

土地所有者に対して、各整備項目別に、買収提供・借地提供について協力の意識を調査した。設問では、土地の提供に「協力する」、「計画がよければ協力する」、「計画が良くても協力できない場合もある」、「協力は困難である」、「わからない」の5段階で質問した。調査結果を表－6に示す。

表－5 都市基盤・生活関連の施設等に関する満足度調査 注) 単純集計欄 イ：どちらかというと不満、ロ：不満 を示す。

調査項目			回答者数 886 名			単純集計				χ ² クロス検定結果			
						不満サイドの意見 (%)			有意に多い		有意に少ない		
区分	番号	項目	イ	ロ	計	0.5%で有意	1%で有意	1%で有意	0.5%で有意				
道路・交通	181	幹線道路の幅	34	28	62	30歳代、公務員							無職
	182	幹線道路の本数	28	19	47		30歳代						無職
	183	自宅近くの道路の幅	29	28	57								
	184	自宅近くの道路の本数	17	13	30		30歳代	60歳代					
	186	自転車歩行者道の整備	36	30	66	30歳代	公務員						
	189	駐車場の整備	33	34	67	公務員							70歳代以上
	1	通勤通学路などの整備状況	17	9	26	30歳代、公務員		卸売・小売・飲食業	60歳代、70歳代以上				
	2	緊急自動車の進入道路の整備	20	12	32	30歳代			60歳代				
	3	公共交通機関の整備状況	19	10	29	30歳代、公務員							無職
公園・緑地	7	身近で小さい公園の整備状況	22	15	37	30歳代							
	18	大きい公園の整備状況	16	9	25	30歳代、公務員							
	9	あなたの家の緑	13	7	20	卸売・小売・飲食業							
	8	近所の緑	10	7	17	卸売・小売・飲食業							
	22	都市部全体の緑	17	7	24	公務員		専業主婦					
各種施設	5	高齢化・福祉施設の整備状況	14	7	21								
	6	公民館・集会所の整備状況	12	6	18								
	16	図書館など文化施設の整備状況	15	9	24	30歳代、公務員							60歳代、無職
	17	屋外スポーツ施設の整備状況	16	9	25	30歳代、公務員		無職	50歳代、60歳代				
	19	娯楽施設の整備状況	23	16	39	30歳代、公務員	65歳以上家族いない	65歳以上家族いる	60歳代				
	14	雇用機会の現状	27	21	48								
	4	買い物の利便性	12	7	19	29歳以下、30歳代、公務員		60歳代、無職	50歳代、卸売・小売・飲食業				
	20	池田湖畔の整備状況	12	9	21		65歳以上家族いない	65歳以上家族いる					
	21	駅前周辺の整備状況	28	17	45	公務員			60歳代、無職				
	23	都市部全体のイメージ	27	13	40								

調査結果は、買収提供・借地提供に関わらず、ほぼ同等の結果を示し、土地の提供に「協力する」・「計画が良ければ協力する」と答えた土地所有者が全体の3割弱、「計画が良くても協力できない場合もある」・「協力は困難である」と答えた人が全体の約4割強、「わからない」と答えた人が全体の約3割弱となっている。

最も協力するという回答が得られたのが、道路であり、これは、表－5に示す住民の不満度が特に高く、道路の改善が住民にとって切実なものとなっていることを示したものと見える。また、全体の約半数の人が「計画がよければ協力する」・「わからない」と答えている。まちづくり施策において、情報公開・説明会・ワークショップ手法をはじめとする種々の住民参加施策の展開など、行政サイドから住民へ向けて、積極的な働きかけが今後更に重要なものと思われる。

表－6 土地の提供についての意識

(上段：買収提供、下段：借地提、単位：%)

土地利用 および 整備項目	協力する	計画が 良ければ 協力する	協力で きない 場合も ある	協力で きない	わから ない	回答者 数
道路	12 11	27 25	18 17	21 22	22 25	280 258
公園・緑地	9 8	21 21	18 17	26 25	26 29	274 259
下水道施設	11 12	18 15	18 17	28 27	25 29	273 256
貸し農園等	9 9	18 20	16 16	28 24	29 31	282 263
文化・スポーツ 施設	8 8	23 22	17 16	26 26	26 28	273 256
コンベンション施 設	6 7	17 17	18 17	27 25	32 34	270 256
新規住宅	9 8	18 20	18 17	31 29	24 26	275 256
商業施設	9 8	20 21	16 15	25 25	31 31	270 257
民間企業用 地	6 7	13 13	21 20	32 29	28 31	274 255

(2) 農地について

池田町都市部においても、イケミナミ地区を中心として、市街地内に比較的多くの農地が残存する。街区公園をはじめとする身近で小さな公園緑地等の整備が十分でない池田町では、自然面としてのオープンスペースの重要な役割を、農地が担っている。

問. 7は農地に対する設問であり、農地を所有している214名のうち46%の人が、今後も「ずっと農地として置いておきたい」と答えている。また、農

地を所有していない643名のうち46%の人が「家庭菜園」を現在利用したいと考えており、将来的利用も含めると68%の人が「家庭菜園」の利用を希望している。そして、将来的利用を含めた「家庭菜園」の利用希望者で回答のあった423名のうち、40%の人が1区画「15～30m²」の家庭菜園の広さを希望しており、75%の人が家庭菜園1区画あたり年額5,000円未満の使用料を希望している。

5. アンケート調査における自由意見

アンケート調査における自由意見の結果を表－7、－8、－9に示す。表－7は住民にとって、池田町の美しい場所や好きな場所についてたずねたもので、533名から回答を得た。回答の結果は、いずれも、自然の風景が生かされている場所、人工的であっても水や緑をふんだんに取り入れている場所、歴史的な場所となっている。これは、1992年に、徳島県東部の住宅都市である北島町において実施したアンケート¹⁾でも同様の傾向が確認されている。

表－8は、まちづくりへの要望を集約したもので、第1位に職場の確保が、第4位には住民参加に関する意見があげられている。雇用問題が健在化している地方都市においては、イタリア・ウルビノ市の公園計画²⁾に見られるような、雇用施策と関連したまちづくり計画が望まれる。

表－9は、回答者にとって最も大切なものが何かを質問したもので、「家族」・「健康」・「家族の健康」が75%を占めている。先に示した北島町アンケートでも同様の質問を行っているが、ほぼ同様な結果であった。日々の生活、ひいてはまちづくりにおける生活者の基本的視点を、この結果は示しているものと思われる。自由意見の回答形式にもかかわらず、多くの回答用紙から次々に見る「家族」「健康」の2つの言葉は、筆者らの印象に強く残った。

表－7 池田町の美しい場所、好きな場所：自由回答

順位	池田町の美しい場所、好きな場所 (回答者数 533 名、複数回答のため回 答総数 1,247 回答)	構成率 (%)
1.	丸山公園周辺	57
2.	池田ダム周辺	30
3.	諏訪公園周辺	26
4.	吉野川運動公園周辺	17
5.	上野が丘周辺	16
6.	総合体育館周辺(12)、7. 吉野川(12)、8. 箸蔵寺周辺(9)、9. 本町うだつの町並み(7)、10. その他(46)/注：()内の数字は構成率(%)	86

表一 8 まちづくりへの要望：自由意見

順位	内容 (回答者数 349 名)	構成率 (%)
1.	職場の確保	15
2.	道路・下水道の整備	14
3.	自然環境の保全・育成・整備	12
4.	住民参加の機会	8
5.	行政のあり方	8
	1. 道路・下水以外の公共施設(7)、7. 商業地の再開発(7)、8. 住環境の整備(6)、9. 観光拠点としての整備(6)、10. 公園や広場の整備(5)、11. 福祉の充実(4)、12. 教育(3)、13. その他(11) 注：()内の数字は、意見の構成率 (%) を示す。	43

表一 9 「あなたが一番大切なもの」：自由意見

順位	内容	池田町 1996.11 月 構成率 (%) 回答者数 569 名	北島町 1992. 7 月 構成率 (%) 回答者数 732 名
1.	家族	45	40
2.	健康	18	21
3.	家族の健康	12	7
4.	その他	25	32

6. おわりに

本研究により、池田町住民アンケートを通して明らかになったことを以下に示す。

(1) 都市施設等に関する満足度

都市基盤・生活関連の施設等に関する満足度調査では、 χ^2 検定により、「30 歳代」・「公務員」・「65 歳以上の家族がいない」人などが、不満サイドの意見を多く持っており、また、「50 歳代」・「60 歳代」・「70 歳代以上」・「65 歳以上の家族がいる」人などが、不満サイドの意見が少いことがわかった。このことから、まちづくり計画のプロセスにおける各種組織計画において、特定の年代層に片寄ることなく、バランスある組織づくり画が望まれる。

(2) 土地の活用に対する住民の意識

(a) 土地の提供について

土地の提供に関する土地所有者の意識は、土地の提供の形態が買収・借地に関わらず、ほぼ同様の結果であり、都市施設の中で不満度の高い道路では、土地所有者の土地提供に対する高い協力の意志が確認された。

調査結果は、土地の提供に「協力する」・「計画が良ければ協力する」と答えた人が全体の 3 割弱、「計画が良くても協力できない場合もある」・「協力は困難である」と答えた人が全体の約 4 割強、「わからない」と答えた人が、全体の約 3 割弱であった。

また、全体の約 5 割の人が「計画がよければ協力

する」・「わからない」と答えており、まちづくり施策において、行政サイドから住民へ向けて、情報公開・説明会・ワークショップ手法をはじめとする種々の住民参加施策の展開など、積極的な働きかけが今後更に重要になるものと思われる。

(b) 農地について

農地を所有している 46%の人が、今後も「ずっと農地として置いておきたい」と回答している。「家庭菜園」については、農地を所有していない人の 46%・68%の人がそれぞれ、現在利用したい・将来的に利用したいと考えている。そして、利用したいと考えている人の 40%が 1 区画「15～30m²」の家庭菜園の広さを希望しており、75%の人が家庭菜園 1 区画あたり年額 5,000 円未満の使用料を希望している。

(3) アンケート調査における自由意見

(a) 住民にとって美しいところ、好きな場所

回答の結果は、いずれも、自然の風景が生かされている場所、人工的であっても水や緑をふんだんに取り入れている場所、歴史的な場所となっている。

(b) まちづくりへの要望

住民アンケート結果では、第 1 位に職場の確保、第 4 位に住民参加があげられており、池田町の今後のまちづくり計画で取り組むべき、重要な課題となっていることが判明した。

(c) 住民の大切なもの

回答者にとって、最も大切なものとして、「家族」・「健康」・「家族の健康」という回答が 75%を占めた。この結果は、日々の生活や、まちづくりにおける生活者の基本的視点を示しているものと思われる。徳島県北島町での調査結果もほぼ同じ結果であった。

謝辞：本研究を遂行するにあたり、池田町役場・池田町内会の方々からは種々のご協力やご助言をいただきました。ここに感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 北島町：21 世紀北島町ルーパタウン計画にかかる町民アンケート、1992 年 7 月
- 2) パオロ・スパーダ：特別講演「イタリア・ウルビノの都市整備計画と景観・緑地環境コントロール」、日本都市計画学会関西支部：1994 年度第二回都市計画シンポジウム